

2023年 第1回

臨時会報告

正副議長選出、佐藤樹一郎知事挨拶

佐藤知事「県民の幸せのため、粉骨砕身の覚悟で」

5月18日(木)と19日(金)、改選後初めての組織議会となる第1回臨時会が開催されました。

臨時会では議席の決定、正副議長の選出、常任委員や議会運営委員の選任などが行われました。

開会に先立ち、議員や執行部の自己紹介が行われ、佐藤樹一郎・新知事は「県民の幸せのため日々全力で、粉骨砕身の覚悟で県政を運営していきたい」と挨拶しました。



【写真は、議長選の投票の様子】

東九州新幹線 or 豊予海峡ルート?

佐藤新知事は、前職の大分市長時代から大分市佐賀関～愛媛県佐田岬間の約14kmを長い橋か海底トンネルでつなぐ「豊予海峡ルート」整備の実現に意欲を示しています。

昨年9月に刊行された『豊予海峡ルート推進シンポジウム』報告書では、コストや経済波及効果に関する調査結果が示されています。事業費は鉄道トンネル案の9,630億円から、新幹線と高速道路併用の橋梁案の3兆2,410億円まで様々なタイプで試算され、主に海底トンネルを選んだ場合に、利用者増や移動時間短縮のメリットが建設費用を上回ると分析されています。

片や広瀬前知事は在任中東九州新幹線整備を目指していました。県は期成会を中核に官民を挙げて機運醸成を図り、建設事業化の前提となる整備計画路線への格上げを国へ要望してきました。東九州新幹線鉄道建設促進期成会から出された『東九州新幹線調査結果』報告書では、将来的な人口減少の影響を考慮しても一定の費用対効果が期待できるとしています。

みなさんは、東九州新幹線と「豊予海峡ルート」整備、どうお考えですか？

2023年 第2回

定例会報告

「安心元気」「未来創造」

～佐藤樹一郎知事、所信表明～

7月5日(水)から8月2日(水)にかけて第2回定例会が開催されました。また、会期中には、予算案を集中審議する予算特別委員会が開催されました。

冒頭、佐藤知事が所信表明を行いました。

当面する課題にしっかり対応し、力強い推進力で大分県を新たなステージへと発展させていきたい。そのため、「対話」「継承・発展」「連携」の基本姿勢を徹底した上で、「安心元気」「未来創造」を県政執行の方針とし、誰もが安心して住み続けたい大分県、知恵と努力が報われる大分県、誰もが訪れたい大分県づくりに全力を尽くしたい。

また、安定的な財政運営に向け行財政改革を徹底し、確固たる財政基盤構築に努めたい。

「コロナ禍で失った元気を取り戻す」

今定例会、佐藤新知事は政策的な事業を計上する「肉付け予算案」を提案。

補正額は472億5,900万円当初予算を含めた総額は7,246億1,100万円となり、過去最大となっています。

コロナ禍で疲弊した地場産業の振興、喫緊の課題である物価高騰や人口減少等の対策にも配分されており、知事のやりたいことが示された予算だと感じています。

知事による予算説明の際には、「コロナ禍で失った元気を取り戻し、若者が誇りを持てる大分をつくっていく第一歩として、しっかりした予算が組めた」と述べました。



長期総合計画を前倒し刷新

また、県政の指針である長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」(20年に改訂版策定、24年度末終了予定)について、時代の変化に即した行政運用を図るため、その終了を待たず、有識者会議で新たな計画策定作業に入ることを表明しました。

私のHPにも議会活動・活動報告を掲載していますので御覧下さい。

セキュリティ強化のため、HPのアドレスが変わりました

大分県議会議員 原田たかし

検索

<https://harada-oitakengi.com/>

